

令和3年度 シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	学年	第1学年	学 科 類 科 型	普通科
単位数	2単位	教科書	化学基礎 改訂版(数研出版)				
副教材	化学基礎・化学問題集(愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門)						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
------	---

キャリア教育の視点	化学が物質を対象とする学問であり、人間生活に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付けます。また、物質について微視的な見方ができるようにし、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて知識を深めます。
-----------	---

		学習計画及び内容		考 査
1 学 期	4月	第1編 物質の構成 序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 1 純物質と混合物 2 物質とその成分	物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精錬法、物質の状態変化について学びます。	中間 考 査
	5月	3 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1 原子とその構造 2 イオン	原子の構造、電子配置と原子の性質との関係を学びます。	
	6月	3 周期表 第3章 粒子の結合 1 イオン結合 2 分子と共有結合	原子の電子配置と関係が深い3種の化学結合について学びます。	
	7月	3 分子間にはたらく力 4 共有結合結晶 5 金属結合 第2編 物質質量の変化 第1章 物質質量と化学反応式 1 原子量・分子量・式量 2 物質質量	原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質を粒子の数で表す「物質質量」とその単位molについて学びます。	
2 学 期	8月	3 化学反応式と物質質量	化学変化における物質の量的関係を表す方法などについて学びます。 酸と塩基の性質や反応について学びます。 代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みや利用例について学びます。	中間 考 査
	9月	第2章 酸と塩基の反応 1 酸・塩基		
	10月	2 水の電離と水溶液のpH 3 中和反応 4 塩		
	11月	第3章 酸化還元反応 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤		
12月				
3 学 期	1月	3 金属の酸化還元反応		学 年 末 考 査
2月	4 酸化還元反応の利用—電池・金属の製錬—			
3月	探究活動			

学習の方法	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち、その法則性について考える態度を身に付けましょう。 疑問に思ったことを確かめてみようという態度を身に付けましょう。 学んだことを正確に記録する方法と態度を身に付けましょう。 上記のことを意識して授業を受け、予習・復習を通して学習内容の定着に努めましょう。
-------	---

評価の仕方	下記の(1)～(5)の項目を、評価の観点別(関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取組 (2)ノートに記載内容 (3)観察・実験等 (4)教科書・問題集の問題 (5)中間・期末考査
-------	--

備考	
----	--